月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
2
<EKUTEBIAN VOL.10 FEBRUARY 1992-EKUTEBIAN>
まい　あーと■タイルモザイク画
「屋根」by 土肥恵子

# 立川のいい形

TACHIKAWA NO IIKATACHI

街全体の景色が美しい、面白そうな店がある。けれど、それよりもそこを歩いている人達が、美しく、面白く、楽しくなければ街の意味はない。街を歩く足を、ふと止めたくなる。これからの街が元気に優しさを広げるように、まず、形から、立川のいい形が、立川デザイン賞（立川商工会議所主催）としてスタートした。

うるおい文化賞受賞

**おおきなケヤキ**

幸公民館にある「大きなケヤキ」は、立川在住の銅版作家、赤川政由氏の作品。独特な優しさ柔らかさがあり、道ゆく人を楽しませる。

立川商工会議所建設業部会長賞受賞

**無門庵**

西国立駅前にある無門庵はご存じ、戦前からの無門庵ホテルが改築されたもの。歴史に根をおろした門構えからも深く趣が感じられる。

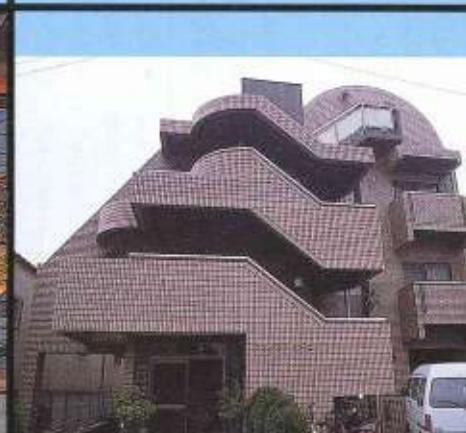
立川市長賞受賞

**森の家**

昭和記念公園内にある、とってもファンタスティックでかわいい森の家は、ユニークな学校建築などで知られる象設計集団の作品。

うるおい文化賞受賞

**三上鰹節店壁画**

たましん本店と三菱信託銀行の間にある有田焼陶板による、鰹の一本釣りの絵看板。子供達が指を指して見てくれるのが嬉しいと社長。

立川商工会議所建設業部会長賞受賞

**籠忠ビル**

市役所通りに面しているオフィスとその背後に面しているマンション部分とを異なる部分でデザインし、うまくまとまっている。

立川商工会議所会頭賞受賞

**OSビル**

立川南口の立川中央通りに面し（柴崎町３丁目）街並の流れにワンポイント。形、素材感などちょっと変わったデザインが新しい。

# 冬と遊ぶ

雪やこんこ、あられやこんこ、降っても降ってもまだ降りやまぬ……猫は炬燵で丸くなる∽冬至も過ぎてますます寒くなってきました。いっそのこと、猫のように炬燵で丸くなって、テレビでも見ていたい…けれど、ちょっと勇気を出して、ちょっぴり冷たい外に出てみるとこんな面白いものとも出会えるんです。今回は「寒い冬を暖かくしてくれるもの」ということで、ここ立川ならでは、しかも冬に楽しめるスポーツなど紹介してみたいと思います。

ホースシューズの写真／サミットでブッシュ米大統領が各国首脳と楽しまれ話題になったのはこのホースシューズ

クロッケーの写真／英米ではケンブリッジ、オックスフォード、ハーバードといった名門大学でクラブ活動として盛んです。

フライングディスクゴルフの写真／昭和記念公園ディスクゴルフコースは実は世界的にも有名なんです。

ローンボウルスの写真／優雅さの中に壮快さがあふれるローンボウルス

★まずこの冬オープンしたばかりの昭和記念公園レインボーアイススケートリンク。月曜日を除いて、毎日、午前十時から午後六時まで、土曜日は九時までナイトスケーティングもできるとか。多摩地区では青梅スケートリンク（一八〇〇㎡）、秋川の東京サマーランド、昭島の昭和の森スケートリンク（一八〇〇㎡）に次いで四番目の誕生。リンクは三一五〇㎡とこの辺では最も大きい規模。スケート教室も開催。大人一二〇〇円子供七〇〇円（貸靴四〇〇円）で楽しめます。

ニュースポーツとして三つ揃ってご紹介したいのが、クロッケー・ホースシューズ・ローンボウルス。いずれも昭和記念公園で日曜・祭日のみすることができます。

## クロッケー

欧米ではクロッケーのことを、芝生のビリヤード、と言って特に英国では古くからの紳士のスポーツとして楽しまれていました。マレットという木槌のようなものでボールを打ち、フープという門を通過させ得点を争うものです。また、他のボールに当てたり、フープを通過させると連続ショットが打て、それらをうまく活用することによって非常に奥行きが広がり、高度なヨミ、正確さが要求され、まさに、芝生のビリヤード、なのです。

## ホースシューズ

あなたは昔、輪投げをしたことはありますか？ホースシューズはそれによく似ています。このホースシューズはU字型のホースシュー（馬蹄）を投げて、十二メートル離れた一本の棒にからめるんです。少し練習すれば棒に当たるんですが、棒にからむように投げるのはなかなか難しいのです。

## ローンボウルス

ルールはいたって簡単で、2チームに分かれ、芝生の上でジャック（目標球）を投げ、偏心のボウルを転がし合って、どちらがより多くジャックに近寄せられるかを競うものです。上級者になると、何とその歪さを巧みに利用して、カーブさせたり、相手のボールをはじいたりと、高度な技術と戦術も要求されます。

## ディスクゴルフ

これは冬とは限らず年中できますが、ここ一番人気のニュースポーツということでご紹介したいのがフライングディスクゴルフ。フライングディスクを使って、何投でゴールに投げ入れるかを競うゲームでゴルフと同じようにホールを周ります。写真を見ると投げているのは、ひょっとして俗に言う、あのフリスビーではないか？ そうです。一般的には商品名としてフリスビーと呼ばれているものです。1ホールの距離は五十～百メートル。ディスクの飛距離平均三十メートルで距離的にはゴルフのように二投、三投でゴールに届くようになっています。運動量があまり多くなく年齢や性別に関係なく楽しめ初心者でもすぐにコースをまわることが可能で家族連れで楽しむのにも最適といえよう。

昭和記念公園に足を運べば他にこんなものも見れます。ここでは、光沢のある美しい姿から『空飛ぶ宝石』と呼ばれるカワセミの繁殖を目指した、国内でははじめて巣箱による営巣環境整備が開始。カワセミは体長十七センチ程の小型の小鳥で、『空飛ぶ宝石』と呼ばれる由縁は、光沢のあるコバルト色の背とオレンジ色の胸を持っていることから。また、公園で観察できる野鳥のうち、代表的なものの写真及び基礎的知識を解説した展示会、「公園の鳥たち」が、三月八日まで開催しています。

冬は寒くて嫌いだと言う前に、お好みに合わせて冬と遊ぶのもけっこう楽しいものです。

## ことわざ問答 23

漢字一字挿入せよ

▼兎を見て●を放つ

▼羊頭を懸げて●肉を売る

2月13日(木)　バロック音楽への誘い　19:00開演　於・立川市民会館小ホール

## 表紙は語る

まい　あーと■タイルモザイク「屋根」by 土肥邑子

今回の作品は、朝日カルチャーセンターでも教えていらっしゃる土肥邑子さんの作品「屋根」です。タイルは透明感があり、焼いてあるものを手軽に使えるので、か弱い手でも出来上りの完成感が高いハードなものを創れるというおもしろさがあるそうです。

タイルに魅せられて30年とか。「自分の中にあるやさしい気持ちをなんとか伝えたい」「人と人、人ともの、人と動物のつながり。精神的にやさしい関係」「伝えられているかしら？」と、やさしく、熱っぽく、制作意図を語ってくださいました。「のぞき込んで見るところに心やすまるものを…」とも。風船の糸の当り、苦心の後をのぞき込んで見てはいかがでしょうか。

猫が歩くとガタガタと音がしそうな洋風のイラカの波の上を、風船が風に吹かれて飛んでゆきます。風船の色が白いところに、どことなく作者の意図が感じられる気がします。



## 立川・トピックス

### 今夏、演劇祭で立川文化向上に一役

TACHIKAWA

市民文化の向上とコミュニティーの広がりをということで立川市地域文化振興財団（中島寛理事長）が募集していたシンボルマークが決まり活動に一層拍車をかけている。時を同じくして、「真夏の夜の演劇祭」参加を募集し始めた。これは多摩地区の演劇文化の振興のため多摩地区を本拠として活動している小劇団を一堂に会し、安い木戸銭で一週間連続で楽しめるもの。出演団体に関して照明、音響や機材運搬の経費として二十万円ずつ助成。優れた二作品に賞金が贈られるというもの。

### 寒い中に嬉しい味

寒い中に店の前を足を運んでくださる方々に日頃の感謝を込めてという気持ちから、ちょうど長男が誕生された十三年前をきっかけに正月に甘酒を無料で配っているのが、柴崎町の関田酒店。もう恒例となったこのサービス。長い列が出来る程だが割込む人がいると、ちゃんと並んで下さいと後ろの人が言ってくれる程の行事ぶり。甘酒配りのきっかけとなった息子さんも夢中で甘酒を手渡していたら、どこからか「顔をみちゃ駄目、手を見なきゃ」というアドバイス。七厘で炭火を使う素朴なところも心をあたたかくしているよう。

## 立川クイズ

「はけ」ということばをご存知ですか。地形を表わすことばですが、立川にも「はけ」があるのです。さて、それはどこでしょう。

①富士見町から錦町にかけての崖
②残堀川が多摩川へ注ぐところ
③玉川上水から各用水が分れる地点

**【1月号の答】**

昔は1月15日の小正月には作物に似せた「アボヘボ」というものを作り、五穀豊穣の願いをこめる神様にお供えしましたが、戦後は作られなくなったとか。また、和尚さんが1月4日、新年の挨拶に檀家をまわるのは「寺年始」といいます。従って③が正解。

昔からの行事が減っていく中で子どもたちが門松やシメカザリなどを集めて燃やす「サイノカミ」が復活、錦町6丁目の子ども会で続けられているのは嬉しい話です。

## 真如苑だより

歳末、そして年始とあわただしく過ぎ去って、2月はどこかに安堵感があり、一息いれたいところです。でも、まだまだ寒さ厳しく受験生をおもちの親御さんのご苦労は察するに余りあります。どうぞ、2月の真如苑で、一息いれてください。お持ち申し上げます。

■日時　2月15日(土)　午後2時～4時
■御本尊、真如宝物館をはじめ、映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

### ことわざ問答 答

兎を見て犬を放つ
手遅れだが、まだ間に合う。過ちを改めるに憚ってはいけない。兎を見て鷹を放つ、とも。

羊頭を懸げて狗肉を売る
言うことと、行なうことが大きく違っていること。見かけだおし。看板に偽りあり。

## 東風

賀状は二日に書くものと決めていたことがあった。「書き初め」というくらいで、元日はそれを避け二日の朝に試みた名残りであるが、それは書き手側の問題であって、読み手の気持を無視している、少なくとも配慮がたりないのではないかとの想いが頭をもたげてからは、世間並みに暮の慌ただしい時にせっせと書き溜める◆当工房は賀状というものをほとんど出したことがなかった。ベスト立川人展のパーティーを新年会がわりに考えてきたし、毎年カレンダーをこしらえているので、お年賀がわりにしていたのだが、そういうものと「賀状」とはまた別物という見解が生じて急遽、その製作にとり掛かろうとしたが時間切れて、仕方なく俳句らしきものをしたためた。去年今年貫く棒の無きままに◆これは勿論、虚子の「去年今年貫く棒のごときもの」をもじったもので、高名にして名句の誉れ高い一句をもじるとはケシカラヌとなじられそうだが、当工房の非才がなせる業だから甘んじて受けるしかあるまい◆ところで「去年今年」をキョネンコトシと読んだ人が案外おおく、大幅な「字余り」に首をかしげていたものであった。そういう当方だって、コゾコトシという読み方を知って一年と経っていない。おもえば、これは俳句界の「業界用語」みたいなもんで知らない方が尋常なのだった◆夜に入りて訪ふ誰彼やえくてびあん

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

（編集）小川知子　隅川 理　中村絵里　原田寛子　半沢正弘　町田健一　山田恵子
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ2&9　枝川一巳　本多 修

月刊えくてびあん 第91号
平成四年二月一日発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37-303
磐城ビル3F 〒190
電話 0425(26)0082
FAX 0425(26)1297
編集人 立井啓介
発行人 沖野嘉男
印刷所 (株)大廣社

私の傑作選

# NICE SHOT!

誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れた！と思った。シャッターが軽い。

小林宏寿さん
（羽衣町1丁目）
愛機➡ニコンF3
■精進湖　日の出前

戸張公海さん
（錦町1丁目）
愛機➡ペンタックスズーム105スーパー
■おもいやり